

2000点の資料からわかった一家のヒストリー。
振り返る「戦争の時代」。

伊那市創造館 第35回企画展

ある一家の十五年戦争

日中戦争から戦後まで、
壮絶な戦いの記憶



長女
国内で看護婦として働くも、満蒙開拓へ。終戦2日前にソ連軍の攻撃により帰らぬ人に。

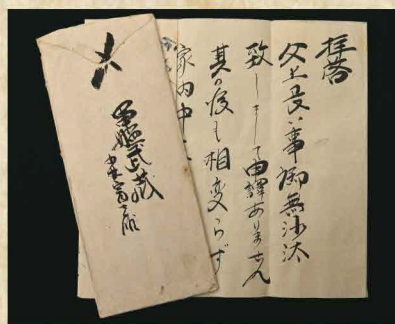
長男
海兵として日中戦争から真珠湾攻撃、ミッドウェー海戦まで激闘。そして運命の「武蔵」搭乗。

次男
16歳で満蒙開拓義勇軍に。その後、陸軍へ入隊。終戦直後、シベリア抑留。



満州の長女から、日本の妹弟6人それぞれへ宛てられた手紙。

4年間、毎日書かれていた「海軍日誌」。そこには書けなかった「真珠湾攻撃の記録」を別のノートに記していた。いったい何が書かれていたのか？



戦艦「武蔵」から届いた数々の軍事郵便。

伊那市創造館
2階企画展示室

令和7年10月15日
～令和8年3月23日

午前10時～午後5時
(最終入場は4時45分) 入場無料

伊那市創造館が15年間かけて集めた戦争関係の資料、市民の皆さんから提供いただいた個人所有の貴重な資料を一挙公開。



十五年戦争を戦った兵士達の持ち物。千人針、寄書き国旗、全ての国民が全力で戦った。



伊那東国民学校(現 伊那東小)の戦中・終戦直後の卒業式の言葉。そして当時の玩具など。子ども達が感じた戦争とは。



収蔵庫に眠っていた上伊那の戦没者名簿を初公開。長い戦争の中で亡くなった方々の生きた証を手に取ってご覧ください。

日中戦争から戦後まで、壮絶な戦いの記憶 ある一家の十五年戦争



戦艦「武蔵」に乗って戦い、戦死した海兵、ある一家「小林家」の富士雄さんの遺品。



小林家、富士雄さんが遺した貴重な記録。読み解かれた昭和13年から16年の「海軍日誌」。



伊那の町にもたくさん残る戦争資料も数多く展示。その一つ、大切に桐箱で保管されていた遺品。



特攻隊から生還した兵士、特攻隊へ送り出した教官、それぞれの想いがこもった持ち物。



新たに発見した陸軍練習機（赤とんぼ）のプロペラを、実物大パネル上に展示。かつて伊那飛行場より飛び立った飛行兵の等身大パネルとともに並ぶ。

伊那市創造館 1階特別展示室では、
特別展—伊那に眠る巨大な戦争遺跡—
陸軍伊那飛行場とその時代 2
も開催中。令和7年12月26日（金）まで。

展示期間終了後も、実物のプロペラ他、一部の資料を別の場所に移して、令和8年3月末まで展示いたします。



- 電車利用……JR飯田線伊那市駅より徒歩4分
- バス利用……伊那バスターミナルより徒歩3分
- 自動車利用……中央道伊那インターより15分
……中央道小黒川スマートインターより10分

※お車で越しの方へ
いなっせ駐車場など、市営駐車場をご利用の上、駐車券を創造館1階事務室までお持ちください。無料化いたします。
※ホームページは…

「伊那市公式」を検索→www.inacity.jp→

→ 図書館・美術館・博物館 → **伊那市創造館**



伊那市創造館

〒396-0025
長野県伊那市荒井
3520番地
TEL:0265-72-6220
Fax:0265-74-6829
Mail:szk@inacity.jp